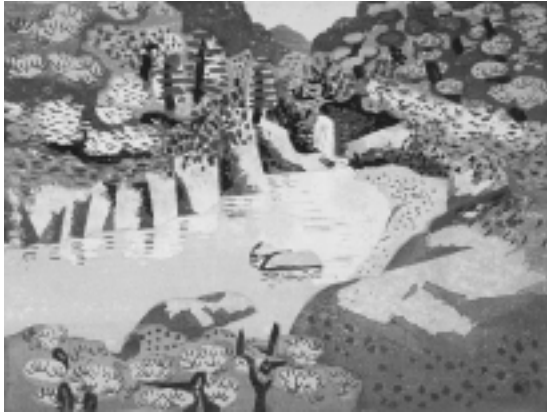


市の将来都市像
多摩丘陵にはばたく
市民文化都市

第1299号

発行・町田市 編集・企画部広報広聴課
〒194-8520 東京都町田市中町1-20-23
市役所の代表電話042・722・3111
発行日・毎月3回1の日(1日、11日、21日)
ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp>



「創作版画伊豫風景」より面河溪虎ケ淵 1936年 木版多色 須坂版画美術館蔵

生誕百年記念 9月29日(土)
畦地梅太郎展 ~11月25日(日)

山のよろこび

町田市立国際版画美術館 秋の企画



山のよろこび 1957年 木版多色

山の版画家として知られる畦地梅太郎が版画をつくり始めたのは24歳の時です。平塚運一に認められ、前川千帆や恩地孝四郎らに助けられながら版画をつくり続ける長い道のりを歩みだします。

畦地は、初期には都会の風景を描いていましたが、その後、故郷の風景に自らの表現を見だし、やがて山を創作のテーマに定めます。決して大きくはない版画の画面に、量感をもった山々が大きく描き出されます。山を描くことで版画家としての評価を得た畦地が、一転して山男シリーズに取り組むのは50歳代になつてからで、このシリーズにより国際的にも知られるようになります。さらに60歳を過ぎるころには抽象に近い表現にも取り組んでいます。

町田市立国際版画美術館蔵

出品内容は、初期から晩年までの版画作品、原画、関連資料など240点を予定しています。

憧れの山々

山を愛し
山を描く

~ 9月24日(日)

町田市立国際版画美術館 夏の企画



浅間山麓の春 1943年 木版多色 伊東深水(1898-1972)東京深川生まれ、中山秋湖に日本画の手ほどきを受ける。浮世絵の伝統を受け継ぐ美人画で名声を博した。

夏から秋にかけての企画展

☎726・2771

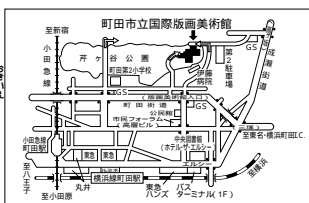
会場 同館講堂
講師 神奈川立湯河原高校教諭・尾上弘司氏

屋外写生を通じて新しい風景表現を開拓した明治の洋画家たちにとつて、山々は大切な画題でした。近代風景版画の世界でも山々は頻りに描かれています。もちろん、風景画の普及に大きな役割を果たした水彩画も見逃せません。山そのものはかりでなく、登山者の姿や高山植物群も、山岳風景画を語るうえで重要な存在です。この展覧会では、山岳風景画の幅広い世界をご覧いただけます。そのほか、我が国最初の登山家であり、文筆家でもあった小島鳥水らの業績を紹介いたします。

月曜休館
9月24日(祝)は開館
開館時間 火・金曜日 午前10時から午後5時(入場は午後4時30分まで)
土・日曜日・祝日 午前10時から午後5時30分まで(入場は午後5時まで)
観覧料 一般 200円
大・高校生 100円
小・中学生 65歳以上 無料
展示解説 同館学芸員による展示作品の解説を行います。
期日・時間 8月12日(日) / 9月2日(日)・8日(土)・9日(日)
いづれも午後1時30分から講演会「高い峰への誘い」
直接会場へおいで下さい。
日時 9月1日(土) 午後2時から



山三題の内 1943年 木版多色 橋本興家(1899-1993)鳥取県生まれ、東京美術学校で田辺至に洋画を学ぶ。日本の城をテーマとする作品を得意とした。



甲州梁川 1921年 木版多色 川瀬巴水(1883-1957)東京生まれ、白馬会養洋画研究所で洋画を学ぶ。新版運動に参加。多くの風景版画を発行した。



山清路 1938年 木版多色 北沢収治(1890-1960)長野県生まれ。彰技堂出身の細井種生に石版画を学ぶ。日本版画協会第一回展に入選。以後、断続的に信州の風景を題材とした水彩画風の石版画を出品する。